





## 第61回全日本大学バスケットボール選手権大会 2009 ALL JAPAN INTERCOLLEGIATE BASKETBALL CHAMPIONSHIP

開催場所: 国立代々木競技場第二体育館  
 試合区分: No.219 女子 2回戦  
 開催期日: 2009(H21)年11月26日(木)  
 開始時間: 10:20  
 終了時間: 11:50

主審: 岩田 千奈美  
 副審: 稲葉 威

山形大 (東北1位)	○ 83	20	-1st-	9	● 64	日本女子体育大 (関東6位)
		16	-2nd-	9		
		25	-3rd-	24		
		22	-4th-	22		

関東6位日女体大と東北1位山形大のベスト8をかけた大事な一戦。出だしから果敢に攻め入った山形大がゲームの主導権を奪う。追い上げる日女体大に対し、突き放す山形大と激しい攻防が繰り広げられたが、最後までリードを守り抜いた山形大の勝利となった。

第1ピリオド、序盤から積極的にドライブを仕掛ける山形大は、相手のファウルを誘う。さらにバスケットカウントを連発し、ゲームの主導権を握る。対する日女体大は山形大の良いディフェンスに阻まれ、シュートが入らず、苦しい展開を強いられる。ミスが続いた日女体大はタイムアウトを請求し、立て直しをはかるも、9-20とリードを奪われてしまう。

第2ピリオド、リズム良く攻めていた山形大であったが、自分たちのミスから得点を奪われてしまう。それに勢いづいた日女体大は、#12中島の3Pシュートから追い上げをみせる。しかし、山形大はタイムアウトから落ち着きを取り戻し、#8赤澤の連続得点などで再び相手を突き放し、18-36で前半終了。

第3ピリオド、序盤から山形大のアウトサイドが爆発。4連続3Pシュートで一気に相手を突き放し、流れを完全に掌握する。しかし、諦めることのない日女体大は#8庵下の粘り強い攻めから、広がった点差を徐々に詰めていき、再び元の点差まで引き戻す。42-61で、日女体大は最終ピリオドに望みをつなぐ。

第4ピリオド、なんとか追撃したい日女体大であったが、肝心のシュートが入らない。逆に確実にシュートをものにする山形大にまたもや点差を広げられてしまう。日女体大は果敢にオフェンスリバウンドを奪い、ゴールを狙うも、山形大のディフェンスを最後まで崩すことができず、64-83で山形大の勝利に終わった。

浮池 亮太 (全日本大学バスケットボール連盟)

(C)Japan Collegiate Basketball Federation.